

2021年11月9日

2021年度 国立天文台の将来シンポジウム

～波長を超えて将来計画を考える～

開会の挨拶

常田 佐久

今日、明日の2日間にわたり、2021年度「国立天文台の将来シンポジウム」を開催します。これまでは、主に各コミュニティを中心として将来計画が議論されてきたと思いますが、計画の大型化に伴い、天文学コミュニティ全体での議論が必要になっています。実際、学術審議会等では、「この計画は天文学コミュニティ全体からどのくらいの支持を得られているのですか？」という質問が多くなっていると、感じます。

国立天文台では、「プロジェクトウィーク」と呼ばれる発表会を長年行ってきました。これは、個々のプロジェクトの過去1年の進展や現状が共有できるというメリットがありましたが、将来計画については各プロジェクト個別の議論のみで、プロジェクトを横断するような国立天文台としての将来計画はあまり議論できていない、という課題も顕在化してきたと思います。

そのため、国立天文台の将来計画の議論をする場としての「将来シンポジウム」について、前期と今期の科学戦略委員会で何度も議論が行われました。それらの意見を踏まえ、SOCで今回のシンポジウムの狙いや構成を議論いただき、現在のようプログラムとなりました。

「波長を超えて」というキーワードがありますが、今回のシンポジウムは複数のコミュニティの将来計画を、まず知って、そして理解を深めるために議論する新しい試みの場となります。このキーワードには電磁波だけでなく、重力波やニュートリノといったマルチメッセンジャーも暗に含まれています。私自身も、国立天文台の現状を紹介し、今後へ向けての取り組みなどをご報告します。

国立天文台の将来計画を検討するに当たって、サイエンスの議論はコミュニティからのインプットが本質的に重要です。何度も議論を重ねた科学戦略委員会の皆様、SOCの皆様、レビュートークされる皆様、そして本シンポジウムに向けてさまざま議論をしていただいた各コミュニティの皆さんに感謝いたします。

今回のシンポジウムをきっかけに、国立天文台の将来計画の議論が活発になり、将来計画の策定につながることを期待します。